

2007年11月6日
東日本旅客鉄道株式会社

首都圏在来線早期地震警報システムの導入について

JR東日本では、在来線をご利用されるお客さまの安全確保を目的として、線路沿線に地震計を配置し、揺れの大きさに応じて地上設備の点検や運転規制を行っています。

今回、その安全性をより一層向上させるため、地震発生時にいち早く列車を緊急停止させる「首都圏在来線早期地震警報システム」を首都圏に導入します。

「首都圏在来線早期地震警報システム」は、当社の新幹線早期地震検知システムが地震の初期微動（P波）を検知後直ちに推定した地震情報と、気象庁の緊急地震速報をそれぞれ活用して、必要な区間の列車を緊急停止させるシステムです。

今後もさらなる安全の確保を目指して、より早く確実に緊急停止させるためにシステムのレベルアップを検討していく予定です。

1. 「首都圏在来線早期地震警報システム」の概要

別紙を参照してください。

2. 使用開始時期

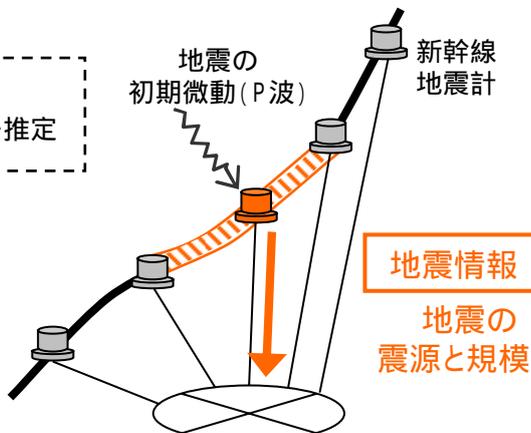
2007年12月1日から使用開始の予定です。

首都圏在来線早期地震警報システムの概要

新幹線早期地震検知システム【2004～2006年度に改良】

【新幹線地震計】

P波から地震の震源と規模を推定



緊急地震速報

気象庁

緊急地震速報
配信会社

首都圏在来線早期地震警報システム

【受信・警報サーバ】

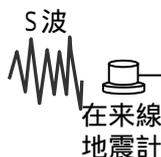
地震の震源と規模から、
緊急停止が必要な区間を確定

地震情報

受信・警報
サーバ

緊急地震速報

地震の震源と規模



防災情報
システム
(プレダス)

警報制御
装置



【警報制御装置・列車無線】

自動で乗務員に緊急停止を指示

列車無線



【緊急停止区間のイメージ】 警報範囲に基づき必要な区間のみ緊急停止を指示



運転再開・線路点検は
在来線地震計の観測値で判断